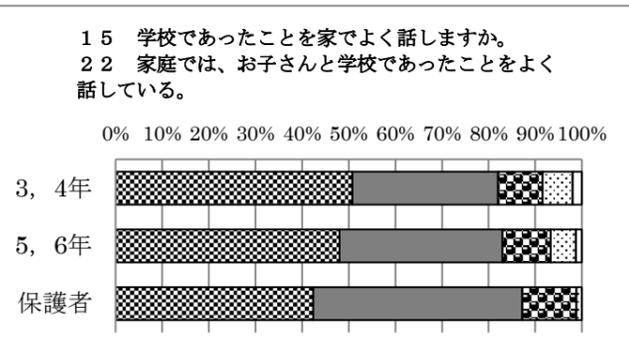
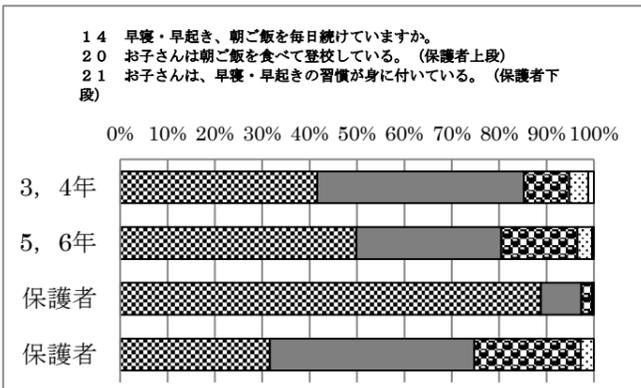
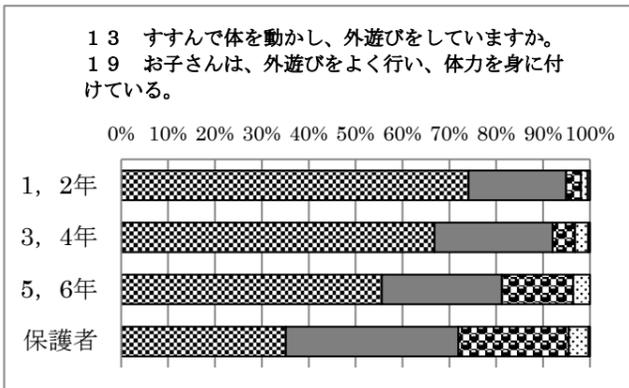
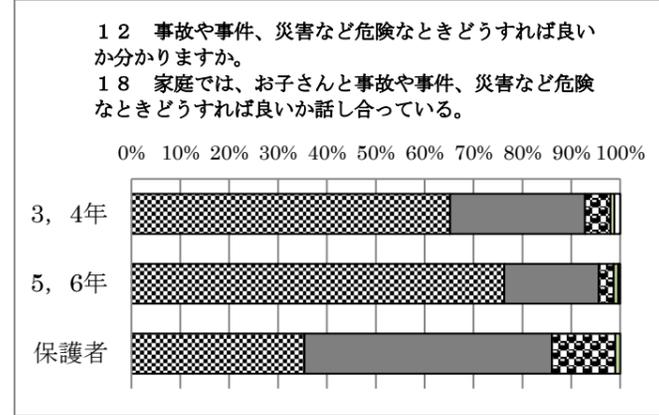
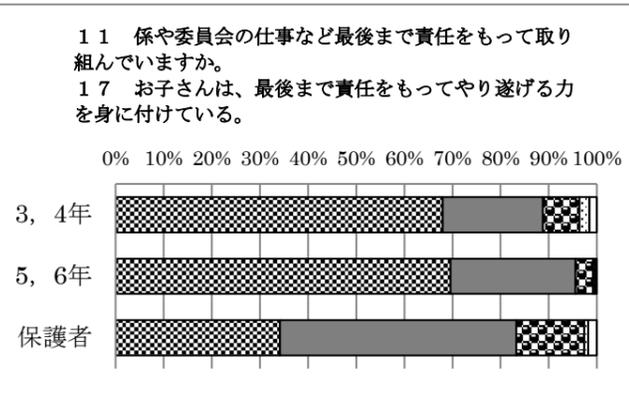
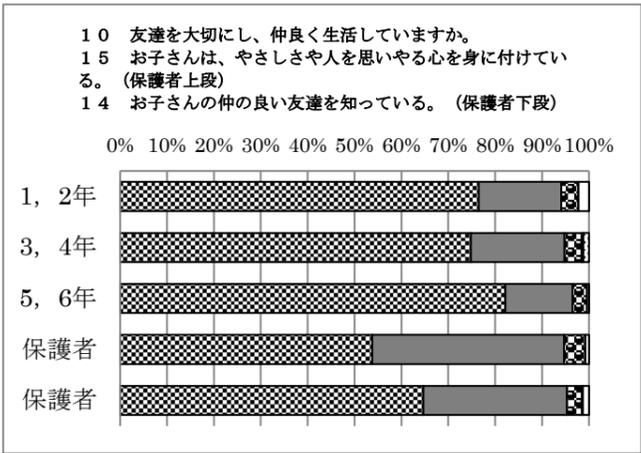
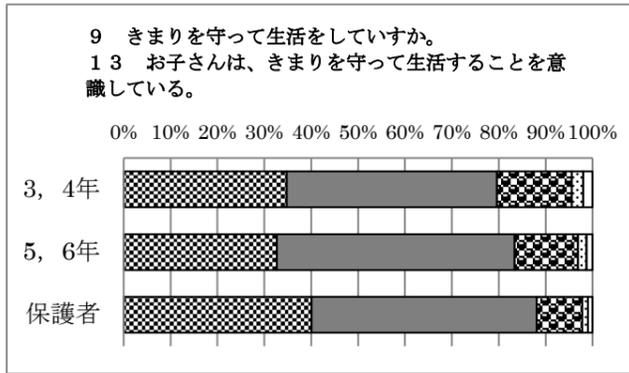
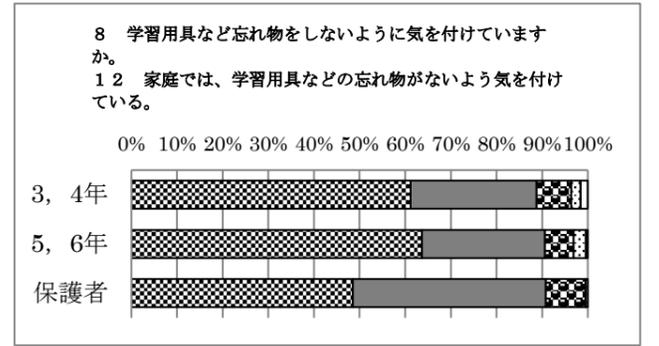
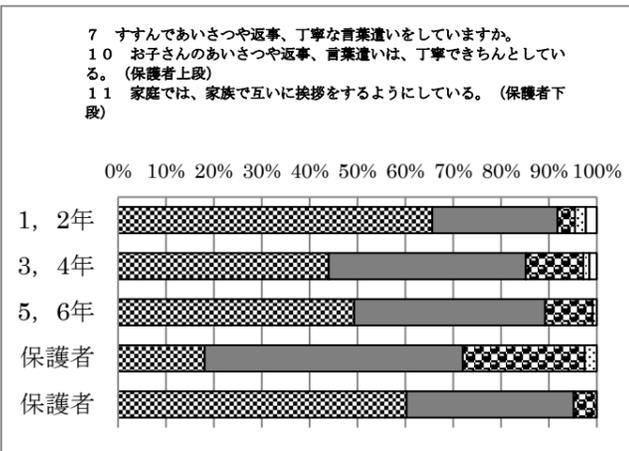
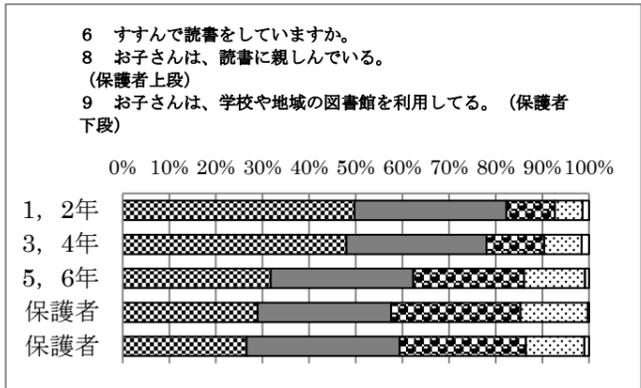
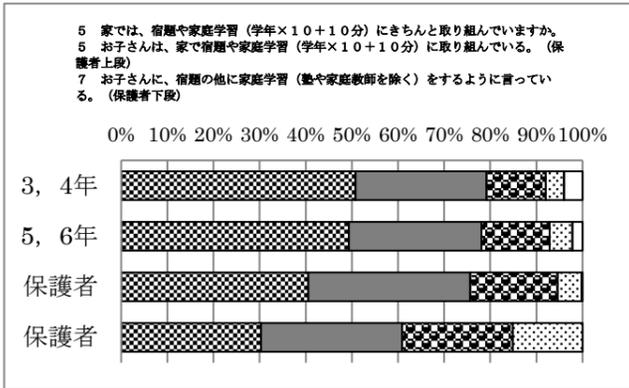
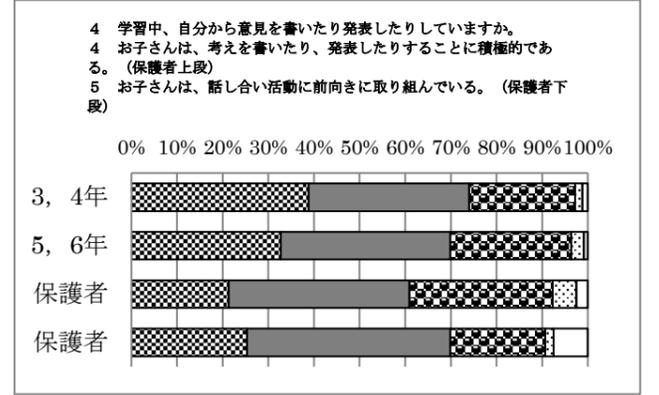
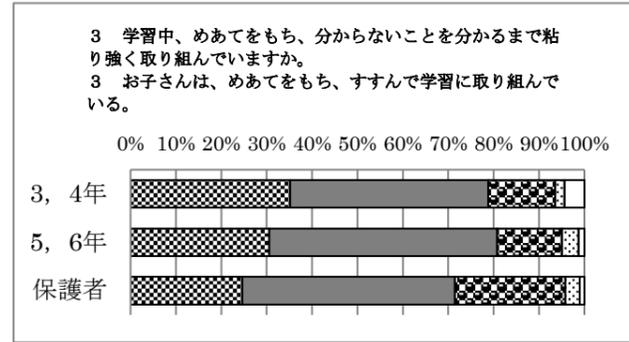
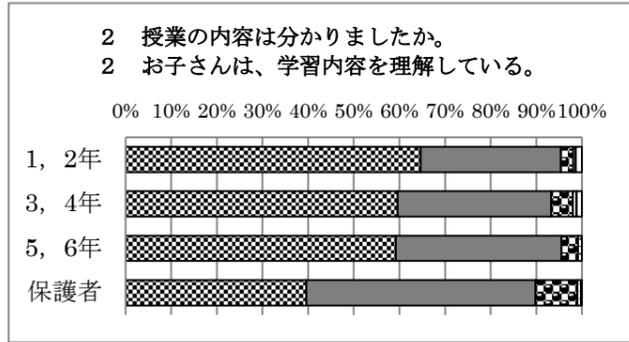
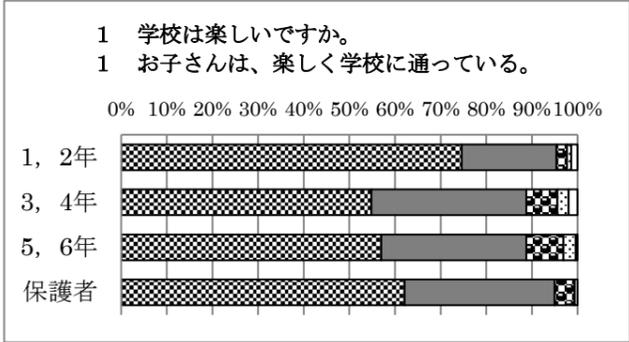
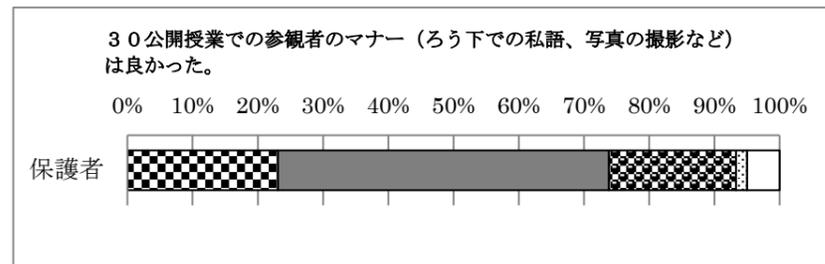
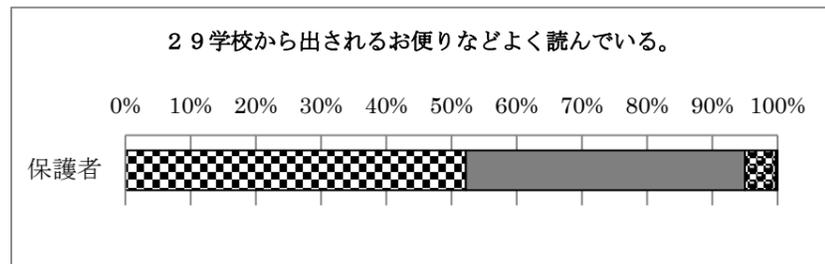
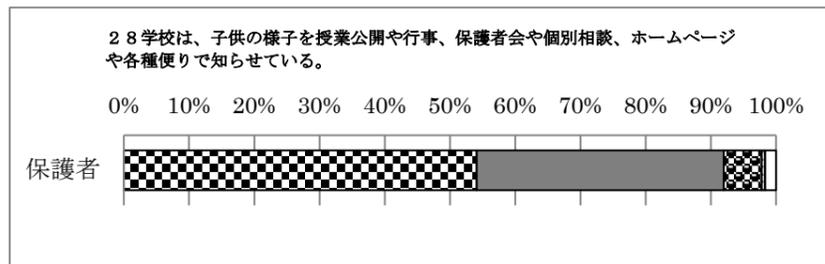
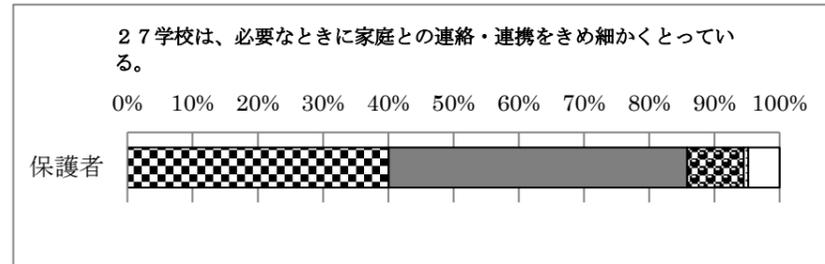
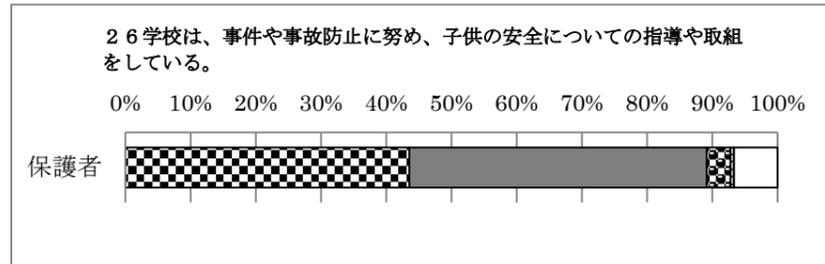
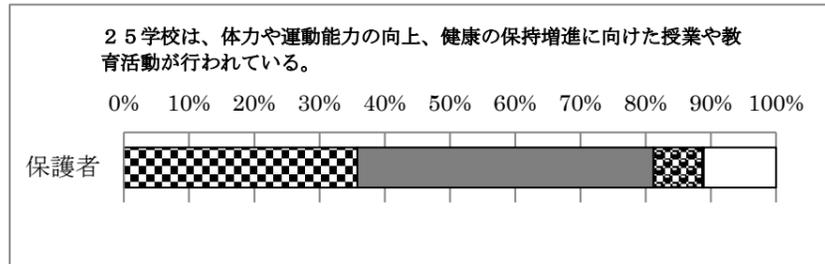
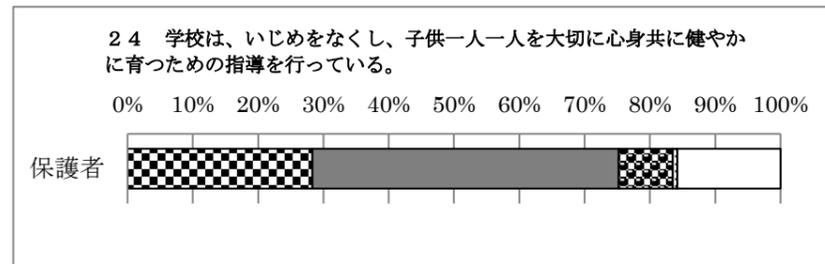
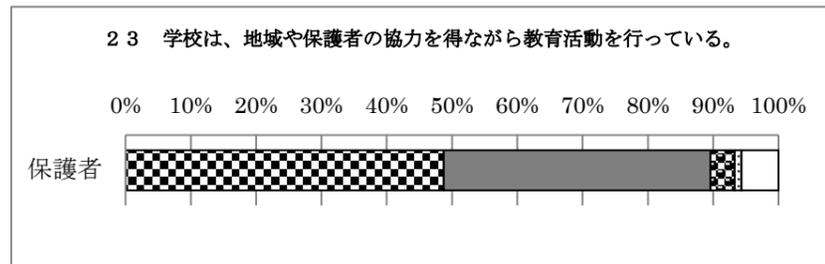
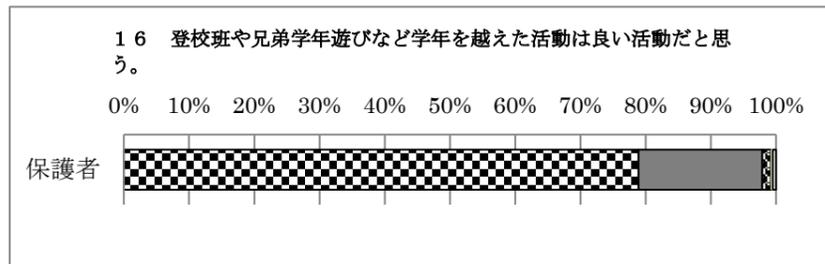


全体の結果について

…よく当てはまる
  …やや当てはまる
  …あまり当てはまらない
  …全く当てはまらない
  …分からない



※評価項目(内容)によっては、3~6年生のみの問い、また、保護者の問いが2項目となり、回答のグラフが2段になっています。  
※紙面の都合上、教職員の評価は、裏面の分析の欄に記載しています。



**アンケートから見てきた高松小の課題**

**○評価項目「学校が楽しい」について【教職員 肯定的な意見 92%】**

豊かな学校生活を送るためには、児童と教員の関係の良さが重要となります。「学校が楽しい」と回答している児童、保護者が多く、何よりもうれしい結果です。子供たちは、充実感、達成感を得ながら学校生活を送っていること、また、互いに認め合える仲間や友達がいると考えます。全ての子供たちが、今後も生き生きと楽しく学校生活を送ることができるように、子供一人一人の個性や能力を十分に生かし、学校生活に満足感を得ることができるようにさらに努力して参ります。

**○評価項目「授業が分かる」について【教職員 肯定的な意見 67%】**

評価項目1と同様、「授業が分かる」と回答している児童、保護者が多く、うれしい結果です。今後も、子供一人一人の学習の実態を踏まえ、「わかる」「できる」授業実践を積み重ねて参ります。また、来年度は、新学習指導要領完全実施に向けて、「主体的、対話的で深い学びができる児童の育成」を目指して、授業改善を行って参ります。

**○評価項目「学校のことについて家で話す」について**

保護者の肯定的な回答が一番高い結果となりました。高学年になると家で学校のことを話さない傾向がありますが、高学年の肯定的な回答も高いことから、高松小の保護者の皆様は、お子さんの話をよく聞いていただいていることがわかります。子供は、悪いことをした際に、自分に都合の良いように話す事があります。また、時間が経つと忘れてしまいます。お子さんの話を信じながらも鵜呑みにはせず、お子さんの話の中で気になった事等がありましたら学校へご連絡をいただくとありがたいです。学校と子供たちと保護者の皆様と供に考え、解決していきましょう。

**○評価項目「宿題や家庭学習の取り組み」について【教職員 肯定的な意見 75%】**

肯定的な回答が多いことからきちんと取り組んでいる児童が多く、ご家庭でも声をかけ、見ていただいていることがわかります。宿題は、その日の学校での学習の復習として、次の学習の予習としてなどの理由で出します。学校としても、学年×10+10分になるよう内容を考えて出しています。（お子さんによって、取り組みに必要な時間は異なりますが）今年度、「宿題の他に」という新しい評価項目を設定しました。設定の理由は、高松小の児童は、「自分から」「主体的に」「工夫して」という点が課題であるということが見られるからです。これからの変化の著しい社会を生き抜くためには、自ら課題を見付ける、自分なりの方法で課題を解決していく力が必要不可欠です。学校からの宿題の内容について工夫をしていきますが、ご家庭でもさらなる声かけやお子さんの興味のある事、疑問に思っている事などを調べるなど、学校とご家庭と協力をして、次代に生き抜く力を身に付けた子供たちを育成していきたいと考えています。

**○評価項目「読書」について【教職員 肯定的な意見 75%】**

毎年の結果ではありますが、学年が上がるにつれ、読書への取り組みが低くなっています。「読む時間が無い」という子供たちの現状があるように思われます。また、学校や地域の図書館の利用についても肯定的な回答が6割となっています。今後も学年に応じた読書活動の推進を行うとともに、読書だけでなく、調べ学習等での図書館活用の機会を増やし、本を読む、本で調べる習慣を身に付け、学力向上と読書を通じた心豊かな子供の育成に努めて参ります。

**○評価項目「あいさつ、返事、丁寧な言葉遣い」について【教職員 肯定的な意見 61%】**

あいさつは、人と人とのコミュニケーションの基本です。全校あいさつ運動などの取組の工夫、指導の工夫などにより、元気よくあいさつする習慣が身に付いてきています。「家庭では、家族で互いに挨拶をするようにしている。」は、肯定的な回答が94%を越えていることもあり、今年度は、教員や来校者とすれ違った際に「こんにちは」と言う児童が増えました。反面、「お子さんのあいさつや返事、言葉遣いは、丁寧できちんとしている。」では、肯定的な回答をした保護者が71%にとどまっています。大人の言葉遣いも見直しつつ、TP0に合わせたあいさつや丁寧な言葉遣い等、当たり前のことが当たり前にできる児童の育成を目指して、さらに指導を充実させていきます。ご家庭でのご協力もお願いいたします。

**○評価項目「いじめ防止」について【教職員 肯定的な意見 79%】**

肯定的な回答した保護者は75.2%でした。さらに、お子さん一人一人が安心して学校に通えるよう、今後も、6月、11月、2月のふれあい月間でのいじめアンケート調査を実施していきます。また、それ以外の月は、「何でも相談」期間の設定、「生活チェックリスト『みんな なかよし』」を実施していきます。これにより、学級の実態や子供たち一人一人の小さな変化を定期的、継続的に把握し、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応に努めて参ります。なお、学校では、気付かない事もあるかと思えます。お子さんの話や様子で気になることがありましたら学校へご連絡をいただくとありがたいです。

